

# 13<sup>th</sup> International Pierre de Coubertin Youth Forum Munich (Germany) 2022/11/1-7

## <国際ピエール・ド・クーベルタン YF とは？>

国際 YF とは、2年に1回世界の各国で開催される国際交流活動である。名前にピエール・ド・クーベルタンを題されているようにクーベルタンの思想（オリンピズム）を広げるため、オリンピックというキーワードを通じた国際交流の場となっている。文化的な交流だけでなく、スポーツ活動・芸術文化的な活動など多岐に渡り約1週間の共同生活を通して互いに理解を深める。オリンピックの価値である「Excellence(卓越性)」「Friendship(友愛)」「Respect(尊重)」を自ら体現し、共同生活の中でともに高めあっていく活動である。

## <これまでの国際 YF>

- 第1回 1997年 ル・アーブル(フランス)
- 第2回 1999年 マッチ・ウェンロック(イギリス)
- 第3回 2001年 ローザンヌ(スイス)
- 第4回 2003年 アレンツァーノ(イタリア)
- 第5回 2005年 ラートシュタット(オーストリア)
- 第6回 2007年 ターボル(チェコ共和国)
- 第7回 2009年 オリンピア(ギリシア...都立国際高校から2名参加(日本初参加))
- 第8回 2011年 北京(中国)アジア初開催...筑波大附高から2名参加
- 第9回 2013年 リレハンメル(ノルウェー)...筑波大附高(筑附)から2名参加
- 第10回 2015年 ピエスタニ(スロバキア)...筑附・自由学園・帝京・中京大附から7名
- 第11回 2017年 ウルヌルメ(エストニア)...筑附・自由学園・中京大附・至学館高から7名
- 第12回 2019年 パリ(フランス)...筑附・自由学園・中京大附から7名

## <国内ユースフォーラム開催(日本ピエール・ド・クーベルタン YF)>

第13回国際 YF 選考のためオンラインで開催(参加者26名)

### 国内 YF スケジュール

◆12月25日(土) 第1日目

9:00~10:00 オープニング/オリエンテーション

10:10~11:00 講義①

クーベルタンの思想と行動からオリンピズムを考えよう

11:10~12:00 講義② 嘉納治五郎とオリンピック・ムーブメント

13:00~14:50 講義③ 国際スポーツ大会におけるおもてなしの心

15:00~17:00 演習① 中京大学スポーツミュージアム

◆12月27日(日) 第2日目

9:00~10:00 演習② オリンピックと持続可能な社会

10:10~11:00 特別講演 海外からみた東京2020大会

11:10~12:30 演習③ 英語での討議

13:30~15:00 演習④ まとめ発表(日本語)

16:00~16:45 クロージング

17:00 解散

### 【 選考結果 】

飯塚 りり	(いづか りり)	:筑波大学附属高等学校	3年女子
部田 美里	(とりた みり)	:名古屋大学教育学部附属高等学校	2年女子
中畝 晴登	(なかうね はると)	:自由学園高等科男子部	3年男子
三村 優月	(みむら ゆづき)	:中京大学附属中京高等学校	2年女子
補欠1:西村 綾花	(にしむら あやか)	:国士館高等学校	3年女子
補欠2:八木 まりえ	(やぎ まりえ)	:自由学園高等科女子部	2年女子
補欠3:橋本 壮	(はしもと そう)	:中京大学附属中京高等学校	2年男子
補欠4:坂井 夕季	(さかい ゆうき)	:名古屋大学教育学部附属高等学校	2年女子

スポーツ活動、講義、知識テストや討論など2日間の活動を通して、国際 YF 派遣の7名が選出された。

※選考後、コロナウィルスの影響により4名に各国規模縮小(最大4名)。

※CIP 田原先生が参加できなくなったため補欠1の西村綾花が追加で派遣されることとなった。

<国際Y Fまでの準備>

2021年12月の国内Y F後に選考が行われ、春休み前に選考結果が伝えられた。

6月 8日(水) 18時30分～ オンラインで実施(自己紹介・国際Y Fの概要・今後の予定)

7月22日(金) オンライン会議開催(生徒のみ)

7月29日(金) 国際Y Fについて・知識テスト対策・ミニエキスポ・ダンスについて

10月1-2日(土日) 土曜日: 中京大学 ミュージアム見学・スポーツ活動・講義・話し合い

日曜日: 中京大学附属中京高校 ダンス・講義・ミニエキスポの準備

※宿泊は日本ガイシ宿泊研修施設を使用 自由学園補欠の八木さん・ギリシャ国際Y F選考の各務さんも参加



【日時】2022年10月1日(土)、2日(日) 一泊二日

【会場】中京大学附属中京高等学校(名古屋市昭和区川名山町122)

および中京大学豊田キャンパス(愛知県豊田市貝津町床立101)

【宿泊】日本ガイシアリーナ 宿泊研修室

【実施プログラム】

1日目 @中京大学

12:00 名古屋駅集合 →バスで移動

13:00 中京大学到着

13:15~14:00 開会あいさつ、アイスブレイク

14:15~15:15 ミュージアム見学

15:30~17:00 スポーツテスト対策

17:15 中京大学出発 →バスで移動

18:15 日本ガイシアリーナ到着

18:30~19:30 夕食

19:45~21:00 ディスカッション

2日目 @中京大中京高校

07:40~08:00 朝食?

08:20 日本ガイシアリーナ出発 →バスで移動

08:45 中京大中京高校到着

09:00~09:50 知識テスト対策

10:00~13:00 ダンス練習、

ミニエキスポ買い出し、昼食

13:10~15:00 ポスター作成

事務局連絡後解散(バスで移動)

東京(筑波大学附属・国土舘・自由学園)3名と名古屋(中京・名古屋大附属)の2名が今回派遣となったため、対面での事前準備は1度(10月)だけとし、オンラインで準備を進めることとなった。10月の顔合わせにより十分なほどアイスブレイクされ、準備は非常に順調に進み、コロナ渦ならではのオンラインにより作業が進められた。このような形での準備は全国に代表派遣生徒が分散しても派遣が可能になると考えられる。



## 第 13 回大会の概要 【開催都市】 ミュンヘン

### 【参加国】

日本(JPN)、オーストリア(AUS)、ノルウェー(NOR)、ブラジル(BRA)、コンゴ(CGO)、キプロス(CY)、チェコ(CZ)、イギリス(GB)、フランス(FRA)、ギリシャ(GRE)、インド(IND)、ポーランド(POL)、南アフリカ(RSA)、スロバキア(SVK)、スペイン(SPA)、ウクライナ(UKR) \*18国 19校。生徒約 60名 オーストリアは2団体

### 【宿 舎】

生徒：3～5人程度の相部屋

教員：2人部屋 スタイン（ノルウェー・リレハンメル Goudal videregående skole）今回は4回目の国際 Y F  
今回は城のような（一部は本物の城を使用）建物を使用し、クロスカントリー以外は敷地内で全て実施された  
部屋の広さは前回フランス（マコン）よりかなり広い？ようであった。





## Tuesday, 1<sup>st</sup> November 2022 Arrival in the afternoon

Welcome to the delegations:

The delegates check in at Castle "Schwaneck", Selection of sporting activities  
18.00 Dinner

20.00 Informational meeting to everyone (Knights' Hall)

20.15 Social evening for the Youth (Knights' Hall)

20.30 First teachers' meeting, Café 22.30 Bedtime



今回の移動は、ミュンヘンの直行便がなくなり予定が変更となったため、名古屋発組は始まる前からスケジュールがハードであった。31日名古屋6時半集合、東京まで移動し乗り継ぎまで12時間の待ち時間があった。そこから14時間かけてフランクフルトまで移動し、さらにそこから1時間かけてミュンヘンまでの移動であった。6時半に集合してから約30時間の時間をかけて移動することになった。この日は派遣団の集合日であったため、各国の移動方法に合わせてドイツの事務局が迎えに来てくれた。荷物を受け取りゲートから出ると、ドライバーの事務局員1名と前回のフランス大会に生徒として参加した双子が迎えてくれた。そこから会場まで移動するが、空港からPullach（プラッハ）は約1時間と郊外に位置した。宿泊施設の近隣にはのどかな住宅地が広がっていた。この日の朝に到着したのは南アフリカの先生と生徒2名だけである。ほとんどの国は夕方以降に到着であったため半日以上の時間を南アフリカの派遣団と共に過ごした。卓球を行ったり折り紙で手裏剣を作ったりととにかく時間を持て余していた。夕方になると半数近くが到着したため各部屋に分かれて共同生活がスタートした。生徒は3~4名の1部屋、スタッフも各部屋2名ずつに別れた。日本代表の中敵はすでに親交を深めていた南アフリカのナジームと同室であったこともあり嬉しそうな様子であった。

ちなみに私は..ノルウェーのスタイン先生と同室生活がスタート。見た目は怖そうだけれど非常に優しく気さくな先生で楽しい日々が始まりました。





Wednesday, 2<sup>nd</sup> November 2022

8.00 Breakfast

8.30 Teachers' meeting, [Knights' Hall](#)

9.00 **Lecture A:** Prof. Dr. Stephan Wassong, IPCC President (English), [Knights' Hall](#) **Lecture B:** Dr. Ines Nikolaus, IPCC Vice-President, Delegate for the International Network of Coubertin Schools (French) [Café international](#)

11.00 Visit of Pullach – Free time

13.00 Lunch

14:00- Preparation for the Opening Ceremony/ 15.30 Selection of sporting activities

**16.00 Opening Ceremony, [Knights' Hall](#)** 18.00 Dinner

20.00 Disco, [Knights' Hall](#)

20.30 Teachers' meeting

22.30 Bedtime

初日はイネス先生の講義から始まった。オリンピックについて古代オリンピックから近代オリンピックへの移り変わりそしてクーベルタンについてスライドを見ながらの講義となった。その後は少し早めの自由時間となり街まで各自で出かけた。買い物をしたりカフェで飲み物を飲んだり部屋や広場での談笑などそれぞれの時間を過ごした。

日本チームは自由散策後に目の前の公園でダンスの確認...

午後はオープニングセレモニーが開催された。

各国の紹介や過去のYF紹介など1時間程度で終了となった。後で別の先生方と話していると、来客の話がいつもは長い今回のYFは非常に簡単でわかりやすく良いオープニングセレモニーであったとの評価であった。

セレモニーの後にはティーチャーズミーティングがカフェにて。それぞれの自己紹介と明日の予定が確認された。



Thursday, 3<sup>rd</sup> November 2022

7.00 Morning gymnastics

7.30 Teachers' meeting,

8.00 Breakfast

8.30- **Discipline of the Coubertin Award: 10.00 Discussion topic 1** 10.30 **Discipline of the Coubertin Award: Cross-country race**

13.00 Lunch

14.00 **Discipline of the Coubertin Award: Arts workshops 1**

16.00 **Discipline of the Coubertin Award:**

**Knowledge Test**

17.00 Free time/Preparation for the Mini-Expo 18.00 Dinner

**19.30 Mini-Expo, Knights' Hall**

**21.00 International dances, Knights' Hall** 22.30 Bedtime

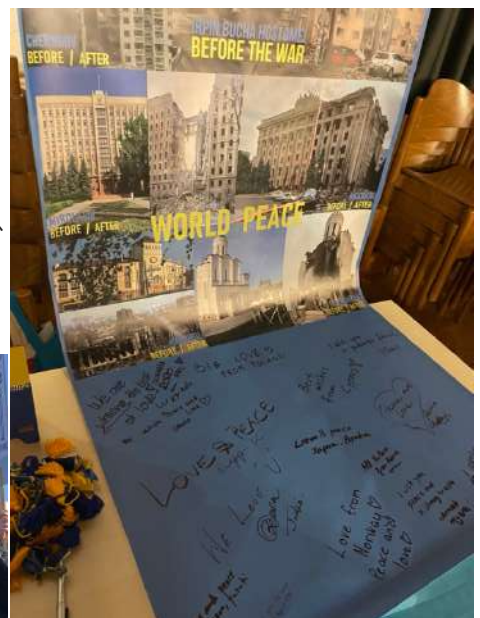
3日目は最も忙しい一日であった。朝7時にドイツのメギ先生の体操から始まり、朝食を食べてディスカッションが始まった。初めて顔を合わせるグループであり、国によって温度差があるためディスカッションにならなかった? という日本チームの反応であった。その後着替えてクロスカントリーコースへ。15人4チームで決められた1.7 kmのコースを走った。後で計測したが実際には1.6 kmであった。(別紙記録掲載) 緑豊かなクロスカントリーコースは非常に走りやすく、途中幼稚園児に応援されながら5人全員走り終えた。みんな運動不足? でかなり疲れ切っていた。そんな中、飯塚りり(筑波附属)は好記録でクロスカントリーを終えていた。

午後はワークショップが開催された。3ヶ所(音楽・ポスター・ダンス)に分かれて第1回目の活動に入った。それぞれ最初は緊張しながらも徐々に慣れて楽しんでいった。中畝晴登(自由学園)は昨晚の夕食中に誕生日のお祝いをしてもらい、夜のディスコに引き続き楽しそうに踊っていたのが印象的である。その後少しの時間を挟んで知識テストが始められた。会場で勉強しているのは日本ぐらい?(勤勉)しかし、テストが始まるとチェコの男子生徒は10分程で全てを書き終えていた。普段の学習の中で実施しているようであった。ノルウェーの学校では週に3回オリンピックやスポーツ社会学について授業があるようで日本との違いを感じた。日本チームも無事終了。結果はいかに...

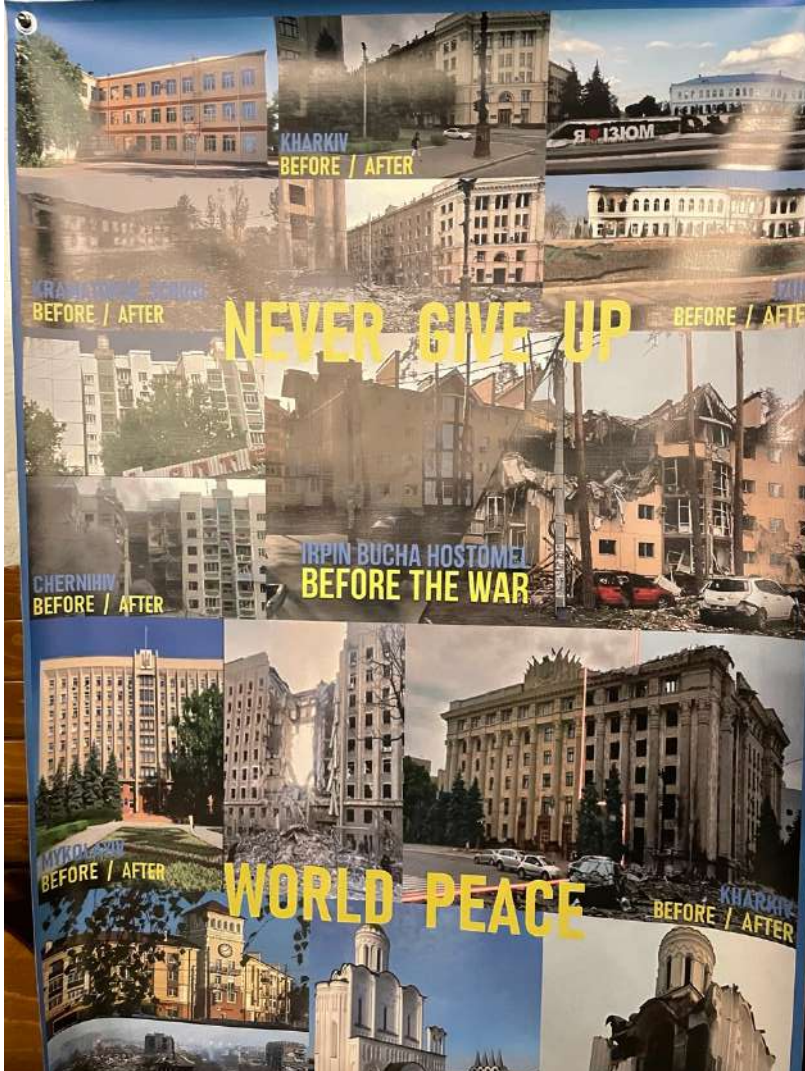
最後はミニエキスポで本日を締めくくることがになった。各国が1つのテーブルにそれぞれの文化やオリンピックについて展示されており、食に関する物が多く感じた。日本にも多くの人に関心を持っており日本独特の文化が他とは異なることを実感することができた。抹茶のお菓子は非常に好評で、各国様々な準備をしていたが日本も自国の良さをアピールできていたのではないかなと思う。しかし、東京オリンピック開催国としてはオリンピックについてのものをアピールできて良かったのではないかと個人的には感じた。東京オリンピックのピンバッジも思ったよりも好評で国際 YF ならではの関心の持ち方であった。ミニエキスポが終わる頃には22時を過ぎており、夜の活動が全体に長かった。予定されていたトラディショナルダンスは翌日に持ち越しとなりこの日を終わることになった。

今回の YF には、ロシアは不参加(例年参加)でウクライナのみ参加しており、ウクライナのポスターを見ると別世界のように感じた。戦争と平和について考える場面もあり、スポーツを通じて何か貢献できないかと考えさせられた。

また、この日は日本に北朝鮮からミサイルが20発以上発射された日であった。世界から見たら日本も北朝鮮や中国の脅威にさらされている現状を心配されており、このような話ができるのも国際的な交流であるからこそだと改めて感じた。









Friday, 4<sup>th</sup> November 2022

7.00 Morning gymnastics  
8.00 Breakfast  
9.00-12.00 **Discipline of the Coubertin Award: Sports competitions**  
13.00 Lunch  
14.00 Teachers' meeting  
14.30 **Discipline of the Coubertin Award: Arts workshop 2**  
16.00 **Discipline of the Coubertin Award: Discussion topic 2**  
18.00 Dinner  
19.00 Free time/Optional Sports activities 20.00 Singing/Playing Games  
21.00 **International dances,**  
22.30 Bedtime

この日はスポーツテストがメインである。午前中は、あいにくの雨の中4種目のスポーツテストが行われた。このスポーツテストは古代オリンピックを行い、前日のクロスカントリーを含め5種目の中で基準をクリアすることが求められる。1種目不合格まで合格となり、2種目不合格で再テスト、3種目不合格で全体も不合格となる。(下記に種目説明)

昼食後は2回目のワークショップとディスカッションが行われた。ワークショップは3回目がりハーサルであったためこの日で本番の発表準備は終わった。ディスカッションも発表の準備を終え、前回よりもまとまりのある話し合いができていた。今回ディスカッション用のポスターを用意していたが、他チームはほとんど何も持ってきていなかった。

夕食の後には前日に予定されていたダンスが披露された。各国の伝統的なダンスが披露されたが、全員で踊れるものや特徴的なダンスも多く非常に盛り上がった。特にフランスのダンスは全員で踊ったが、非常に盛り上がりを見せた。日本チームのダンスも好評で完成度も高く日本の文化を広く知らせることができた。











(1) Cross-country (1.6km)

- ・ クロスカントリー男女合同
- ・ 15人4組にて実施



(2) Bowling(sitting throw)

- ・ 軽量のボールを使用
- ・ 椅子に座ったまま一人4球



(3) Long Jump(3 times jump)

- ・ 3段とび
- ・ 手に持つおもりは各1kg



(4) Stone throw

- ・ 男女別の重さ (不明)
- ・ 1人4回

(5) Steeple chase

- ・ 3つの障害をジャンプ→コーンを回る→3つの障害物をジャンプ



13. CIPEC Youth Forum Sports tests - Results

Nr.	Family name	First name	Delegation	Gender	Cross-country	Bowling	Longjump	Stonethrow	Steeplechase
13	Hausbacher	Verena	AUT 1	f	08:20	6	5.03	5.44	14.39
24	Kreuzer-Rainer	Benjamin	AUT 1	m	08:29	7	6.10	8.10	13.67
29	Lachner	Caspar	AUT 1	m	06:22	3	7.00	8.14	14.24
54	Steiner	Philip	AUT 1	m	06:09	4	6.65	8.28	13.84
14	Höydn	Katharina	AUT 2	f	08:23	10	4.85	6.23	14.92
16	Humann	Jule	AUT 2	f	09:13	1	6.00	6.17	13.68
25	Kalhar	Katharina	AUT 2	f	09:13	2	5.65	4.93	16.32
51	Schnitzer	Anna-Lena	AUT 2	f	08:54	8	4.95	5.90	13.88
4	Sieliski Kozak	Francisco	BRA	m	07:37	4	4.65	6.47	15.79
60	Vicenzi Beutler	Yasmin	BRA	f	10:02	4	4.65	6.47	15.79
38	Mounanou	Charles Alexandre	CGO	m	07:18	3	5.00	7.03	17.21
57	Taha	Jury Assida Saphora	CGO	f	11:12	4	4.90	5.78	17.21
1	Aristodimou	Christos	CY	m	06:27	4	7.00	10.18	13.95
41	Panayiotou	Anastasia	CY	f	09:25	2	4.90	7.49	15.27
26	Kubů	Jáchym	CZ	m	06:37	7	7.55	9.86	12.77
30	Ludikarová	Karolína	CZ	f	09:30	2	5.86	7.18	14.80
53	Siková	Eva	CZ	f	07:00	3	5.70	8.32	14.15
46	Pungar	Stella	EE	f	08:23	4	5.50	7.95	15.46
17	Pungar	Sebastian	EE	m	05:44	5	6.80	8.82	14.30
58	Telhvind	Rasmus	EE	m	06:47	5	6.40	9.40	13.69
35	Martinez Sainz	India	ESP	f	07:11	4	5.30	7.00	16.15
44	Peña Mira	Henar	ESP	f	06:44	4	5.30	6.82	14.82
5	Blaese	Marius	FRA	m	06:10	5	7.10	7.37	12.41
7	Caillé	Amarante	FRA	f	07:59	5	6.56	5.51	13.05
10	Grosset	Maëlys	FRA	f	07:59	3	4.85	7.92	17.21
27	Ladrosse	Manon	FRA	f	07:40	3	6.35	7.10	16.80
50	Sauvageot	Margaux	FRA	f	08:04	5	5.50	8.38	13.24
19	Inslay	Hannah	GBR	f	07:27	2	4.95	5.60	15.60
22	Kang	Nekku	GBR	f	11:50	6	4.61	6.55	17.90
34	Martin	Katherine	GBR	f	09:43	6	4.85	4.85	17.32
45	Frenz	Charlotta	GER	f	08:26	4	4.65	7.59	15.96
37	Mennecke	Richard	GER	m	06:10	5	6.63	9.20	16.09
56	Süßner	Nelie	GER	f	08:58	6	5.25	7.65	16.77

【スポーツテストの評価】

1つ不合格までクリア  
 2つ不合格 再テスト (緑)  
 3つ不合格 不合格 (赤)

※今回は悪天候のため全員合格

Nr.	Family name	First name	Delegation	Gender	Cross-country	Bowling	Longjump	Stonethrow	Result
23	Kloubov	Lemona-Martina	GR	f	05:58	4	6.00	6.55	15.40
31	Lull	Emanuel	GR	m	06:00	4	6.20	9.89	13.08
42	Papakonstantinou	Konstantinos	GR	m	06:13	6	7.20	8.65	13.62
3	Baxa	Anshu Priya	IND	f	08:23	2	4.55	4.50	15.78
8	Chen	Shalom Noah	IND	m	06:56	4	6.60	7.80	12.41
21	Kandulha	Sneha Singi	IND	f	11:56	3	4.98	4.51	17.25
38	Wakita	Angika	IND	f	11:12	4	4.80	5.14	16.26
18	Iizuka	Lily	JPN	f	07:31	5	5.91	7.14	14.61
36	Mimura	Yuki	JPN	f	09:14	4	4.65	6.29	16.41
39	Nakaone	Haruto	JPN	m	07:00	4	6.42	9.15	12.67
40	Nahmura	Ayaka	JPN	f	09:42	1	5.75	4.83	16.46
59	Torita	Mi	JPN	f	08:19	4	5.40	4.70	14.78
11	Gung Thallaug	Sjur	NOR	m	05:53	3	7.70	7.27	11.21
15	Homstad Haugen	Martine	NOR	f	06:54	2	4.85	6.31	13.78
48	Regland	Vilja	NOR	f	09:20	7	5.00	6.05	17.35
2	Baltoczek	Anna	POL	f	07:28	3	6.05	6.44	14.81
56	Szymanski	Karol	POL	m	05:20	4	6.85	8.25	13.16
20	Zaffer	Nazem	RSA	m	07:18	4	6.88	5.05	16.31
6	Bundová	Adela	SVK	f	09:02	3	5.10	6.15	14.41
12	Halama	Martin	SVK	m	06:51	5	6.70	7.63	12.51
17	Hymák	Lukáš	SVK	m	06:27	6	7.35	8.24	13.10
49	Šantomová	Lucia	SVK	f	08:07	6	5.60	6.80	15.46
32	Lybnyets	Karyna	UKR	f	09:13	2	5.55	5.48	15.30
33	Mamysheva	Kateryna	UKR	f	09:31	4	5.05	5.17	16.41
43	Pelykh	Ilya	UKR	m	06:54	2	8.35	10.25	12.21



## Saturday, 5<sup>th</sup> November 2022

7.00 Morning gymnastics

7.30 Teachers' meeting

8.00 Breakfast

8.30- **Discipline of the Coubertin Award:** 10.30 **Arts workshop 3**

11.00 Improving your sporting abilities: Paralympic sports and games

13.00 Lunch

14.00- Free time/

15.30 Packing suitcases/backpacks

16.00 Rehearsals for the presentations of the Arts

Workshops 18.00 Dinner

**19.30 Closing Ceremony** + Presentation of the Arts Workshops/Discussion groups + Disco

22.30 Bedtime

あっという間の5日間であったが最終日を迎えることとなった。この日は成果披露の1日となりディスカッションのまとめとワークショップのリハーサルが行われた。ディスカッションでは数人のメンバーが中心となり6グループの意見がまとめられ、クロージングセレモニーで発表となった。ワークショップは歌、ダンス、絵の3グループであったがこちらも3回の積み重ねの成果でクロージングセレモニーでの発表に向けて準備がなされた。

昼のアクティビティではパラリンピックスポーツの体験が行われた。シッティングバレーボール、二人組でガイドランナーとなり競争、目隠ししての室内ガイドツアーと3グループに分かれた。それぞれ普段できない競技体験を行うことができパラリンピックについての理解を深めることができた。その後は帰国に向けた荷物の片付けとクロージングに向けて各々時間を過ごした。比較的時間に余裕のある一日であった。

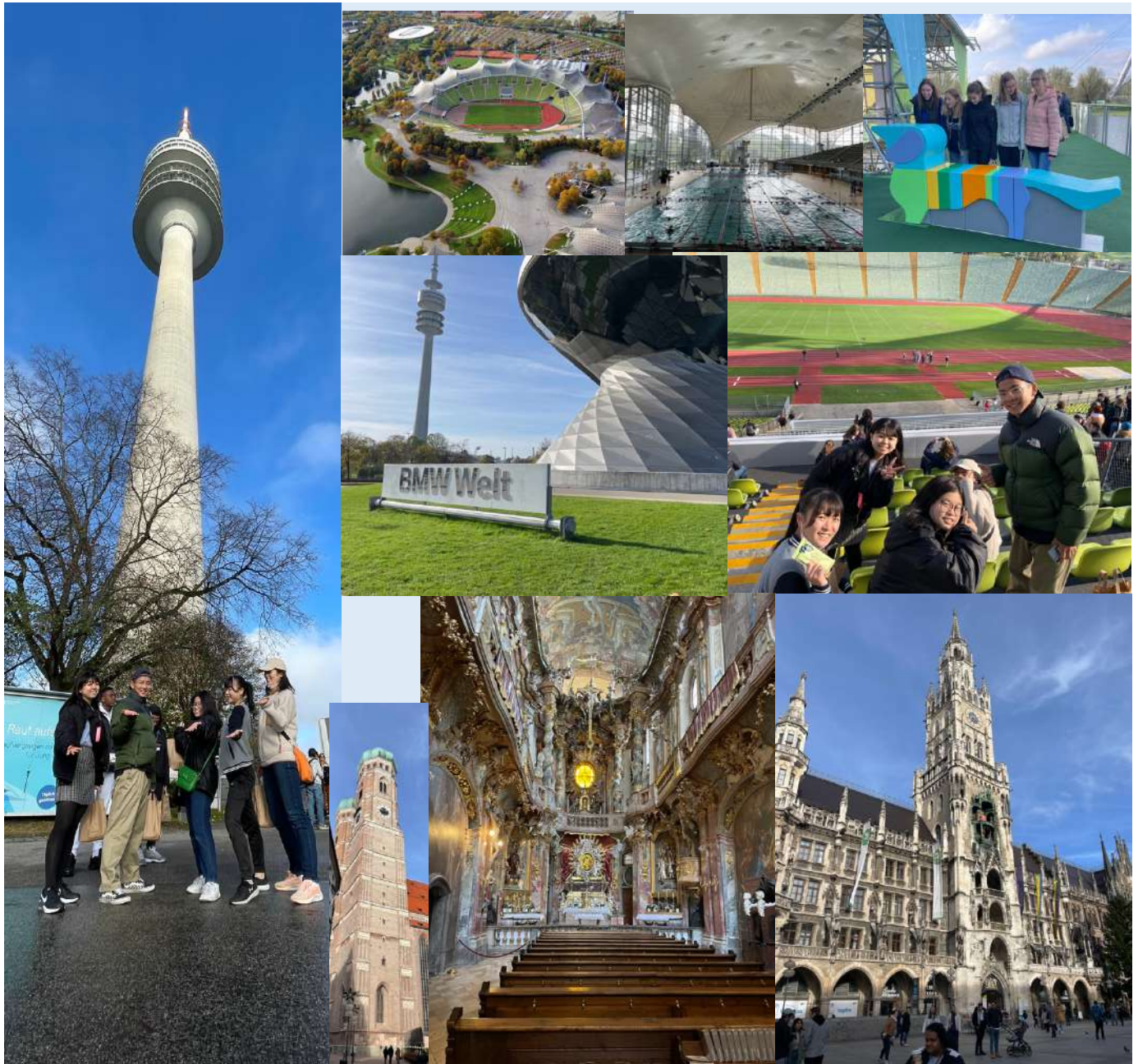




## Sunday, 6<sup>th</sup> November 2022

7.00 Wake up Preparation for departure  
8.00 Breakfast  
9.00 Excursion to Munich (Packed Lunch) 17.00 Guided tour through the Olympia Park of Munich 1972  
Visit of BMW World/Guided Tour through Munich City Free time  
17.00 Departure to the Youth Hostel in Possenhofen  
18.00 Dinner  
19.00 Farewell party  
22.00 Bedtime

最終日は朝から1日観光に時間が充てられた。ちょうど50年前に開催されたミュンヘン五輪のオリンピックパークとミュンヘン市内の観光を全員で行った。一つの公園に集約され複数の競技場に簡単にアクセスすることができた。中心にある五輪タワーからはアルプスをはじめミュンヘン市内を一望することができた。午後からはミュンヘン市内を地元の大学生(高校生)と3時間近く観光した。日曜日はほとんどの店が閉まっていたため買い物はできなかったが、風情ある街並みを見学することができた。生徒は1日歩き疲れホテルに到着することには疲労困憊になっていた。途中PCR検査を受けに行くなど非常にハードなスケジュールであったが他国の文化を知るという意味でも非常に有意義な一日であった。ホテルに到着したのが夜遅くなったが、次の日が5時出発のバスであったため仲間との別れを行わなければならなかった。短い時間であったが貴重な経験を共有し、互いの文化を知るために交流し、名残惜しい時間となった。7日は朝4時45分集合で5時にはミュンヘン空港に向けて出発した。ほとんどの国とはホテルで別れたため帰国に向けた長い帰路について。





<最後に>

今回ピエール・ド・クーベルタン国際YFに初めて参加することとなり、今まで知っているようで実際に見たことはない世界に飛び込むこととなった。様々な活動を通して感じたことは、まさにクーベルタンが広げようとしたオリンピズムであり、「互いを尊重し」「友好を深め」「互いにより良きものを目指す」そんなオリンピズムを自分自身で感じることができた。言葉の壁は確かにあったが、それ以上に相手を理解しようとする心こそが大切なのだと感じた。国や言語や文化は違っても同じ人間であるということには変わらない。そんな交流をすることができたこの場に感謝したい。



## 第 13 回国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム報告書

〈国際 YF とは〉

2 年に一度世界の各地で開催され、様々な国から同世代が集まり、約一週間の共同生活を通してスポーツ活動やディスカッション、芸術活動、文化的な交流などを行いオリンピズムを広めていく活動。

〈第 13 回国際 YF の概要〉

期間：11/1～11/7

開催：ドイツ(ミュンヘン)

参加国：ドイツ(3 名)、フランス(5 名)、イギリス(3 名)

ギリシャ(3 名) キプロス(2 名)、エストニア(3 名)

コンゴ(2 名)、南アフリカ(2 名)、チェコ(3 名)

スロバキア(4 名)、オーストリア 1(4 名)

オーストリア 2(4 名)、インド(4 名)

ノルウェー(3 名)、ウクライナ(3 名)

ポーランド(2 名)、ブラジル(2 名)

スペイン(2 名)、日本(5 名) 以上の計 19 ヶ国



5 日間滞在したユースホステル

※( )は派遣された生徒数、オーストリアからは 2 チーム派遣があった フォーラムのモットー：

Olympism encourages youth to strive for international friendship and peace

(オリンピズムは平和と国際的な友情のために努力する青少年を奨励する)

参加生徒数は 60 名ほど。日本からは以下の 5 人が派遣された。

〈日本からの派遣メンバー〉

- ・飯塚りり(いづかりり)：筑波大学附属高等学校 3 年女子
- ・部田美里 (とりたみり)：名古屋大学教育学部附属高等学校 2 年女子
- ・中畝晴登 (なかうねはると)：自由学園高等科男子部 3 年男子
- ・西村綾花 (にしむらあやか)：国土館高等学校 3 年女子
- ・三村優月 (みむらゆづき)：中京大学附属中京高等学校 2 年女子

※当初開催国はキプロスとされていたが新型コロナウイルスと東欧の情勢悪化の影響によりドイツへと変更になった。(開催期間にも変更があった。)それに伴う宿泊施設の変更により収容人数を大幅に変更しなければならず、参加人数も例年より少なくなってしまう。チーム日本も当初は 7 人での派遣が予定されていた。



## 国内 YF 兼派遣選考会～出発

〈国内 YF 兼派遣選考会〉

2021 年 12 月 25 日、26 日に国内でのユースフォーラム兼第 13 回国際 YF 派遣選考

会が行われた。オンラインで開催され、1 日目はオリンピックに関する講義を受けたあと中京大学スポーツミュージアムの展示品を用いたグループでのアクティビティが行われた。2 日目は日本語でのディスカッションが多かったが、英語での講義やディスカッションも行った。また、オンラインでのエクササイズも行われた。2 日間の活動終了後には最終課題として「今回のユースフォーラムを通して、東京 2020 大会について、学んだこと、感じたこと、考えたこと」というテーマで 1200 字程度の作文に取り組んだ。

国内 YF の前にはオリンピックについて、またクーベルタンについて、オリンピック委員会のサイトを活用しながら予習を行った。派遣の選考もあるということで気合を入れて活動に臨んだことを覚えている。

2 日間の活動ではたくさんの講義やディスカッションを通してオリンピックに関する知識を身につけることができた。また、オンライン越しではあったが他校の生徒と交流できたことはとても新鮮だった。私は最終課題には、講義を通して以前宗教上の理由で女性がオリンピックに参加できなかった国があったことを知って驚いたこと、また東京 2020 大会では男女混合種目が増えたり、参加選手の約半数程度が女性であったことから「宗教とジェンダー平等」に焦点を当てて取り組んだ。実際に自分が派遣メンバーに選ばれたと知った時はとても嬉しかった。

〈国内研修〉

渡航に向けた研修会はコロナの影響でなかなか対面で実施できず、オンラインでの研修会が続いた。オンラインでの研修会ではお互いの近況報告や旅行会社からの説明、また提出書類の確認、伝統ダンスやミニエキスポ等チーム日本として行う活動についての話し合い、知識テスト対策などを行った。生徒だけでミーティングを行ったこともあり、その時は主に伝統ダンスやミニエキスポでの出し物について話し合った。研修会だけでなく、事務局から送られてくるサーキュラーレターを読むのもいつも楽しみにしていた。

一緒に渡航するメンバーのこともよく知らないまま、ようやく渡航のちょうど 1 ヶ月前の 2022 年 10 月 1 日、2 日に宿泊で研修会を行うことができた。参加する前はようやく対面でみんなに会うことができる!と楽しみに思う反面、仲良くなれるだろうか...と不安な気持ちも少しあった。しかし、1 日目の中京大学スポーツミュージアムで行ったアクティビティ、スポーツテスト対策などを通して最初は少しよそよそしかったが宿泊先に向かう頃にはすっかり打ち解けていた。1 日目の夜には一つの部屋に集まってお互いの学校生活について話した。みんな違う学校に所属しているのでたくさん違いがあって、話していてとても面白かった。

2 日間、対面でみんなで集まるからこそできる伝統ダンスの練習やディスカッションで使用するポスターの作成も進めることができ、本当に充実した時間を過ごすことができた。派遣が決まった時からずっと頭にはドイツのことがあったが、宿泊での研修会を通して「本当にみんなとドイツに行くんだ」と、やっと実感が湧いてきたような感じだった。改めて渡航に向けて準備を頑張ろうという気持ちになった。宿泊研修会を機に、メンバー間での情報共有が盛んになった。知識テストに関することやオリンピックに関する記事等を共有することが増えた。コロナ禍ではあったが、宿泊研修会はチームワークを構築するためにはなくてはならないものだったと感じる。(これは渡航してから知ったことだが、ほとんどの国では派遣メンバーは同じ高校に所属している生徒で構成されており、日本のように所属高校が違う生徒で構成されているというのは珍しい。しかし私はそれがチーム日本のよさだと思っている。5 者 5 様の高校生活を送ってきた私たちは国際 YF がなければ出会わなかったかもしれない。私は実際にドイツでの海外の子たちとの出会いと同じくらい日本のメンバーと出会えたことも嬉しく思っている。)



## 〈いざ出発!〉

ついに渡航。10月31日の18:00頃に全員が羽田空港に集合した。夜景を見ながらソーラン節の練習をしたり、知識テストの対策をしたりして搭乗までの時間を過ごした。搭乗時刻の少し前には田原先生と事務局の赤澤さんが見送りに来てくださった。搭乗手続き前にロビーのベンチに座っていると、インド人の女性が声をかけてくださったので一緒にあやとりをして遊んだ。これからどこに行くのかと聞かれたので、「ドイツにオリンピックを広げる活動をしにいきます。インドからの参加者も来ますよ。」と話したら「頑張ってるね。」と応援してもらえた。かなり長い間お話してくださったので「私は今回が初めての海外で少し緊張しているし、英語の発音には自信がないけど、あなたとお話しできて少し自信ができました。ありがとうございます。」とお礼を伝えてお互いに Have a safe flight! と言ってお別れした。初めての空港、初めての飛行機、初めての海外、初めてづくしだった私にとって、これから自分が行っていく活動を初対面の方にきちんと英語で説明することができたことはひとつの安心材料となり、リラックスした気持ちで飛行機に乗った。

ミュンヘン空港でも印象的な出来事があった。ブラジルの歌手に話しかけられたのだ。彼女は日本語が上手で、過去に訪れた日本の都市の名前を覚えてくれたり、「日本が大好きです!」と満面の笑みで話してくれた。日本のことを知っていて、好きでいてくれる人がいたことがとても嬉しかった。



羽田空港にて



フライト前に知識テスト対策



## 現地での活動

〈11/1 1日目〉

チーム日本は他国に比べ早く現地に到着した。南アフリカのチームも日本のチームと同時に到着した。南アフリカのメンバーはとても流暢に英語を話していて驚いた。学校でどれくらい英語を勉強しているのかと聞くと日本の学校よりも少なかったため、追加の授業でもとっているのかと質問するとそんなものはないとのことだったのでさらに驚いた。学校で学んでいる科目については化学など日本の高校と同じような科目であった。このようにお互いの高校生活について話しながらユースホステル周辺を散歩したり、一緒に昼食をとる間に少しずつ仲が深まり、他のチームが到着するまでの間、手裏剣を作って遊んだり、プログラムに組み込まれていたオリムピックに関する知識テストに向けての勉強をした。

昼を過ぎると徐々に他の国のチームも到着した。とても社交的で到着してすぐ握手を求め気さくに話しかけてくるチームもあれば、内向的であまり話をしないチームもあった。ここで感じたことは第二言語の重要性である。もちろん会話の基本は英語であるが、母語が同じ言語同士の国、例えばオーストリアとドイツ、チェコとスロバキアなどは共通の言語で会話が弾んでいたのを見てやはり操れる言語が多いほど意思疎通も容易になると思った。そういう面ではドイツ語やフランス語は母語としている人の数も多いが、日本語はそうではないので大変だと感じた。もちろんだからといって会話には入れないということは全くなく、楽しく話をしていった。

日が沈んだ頃にはこれから一週間生活を共にするルームメイトの発表があり、私はイギリス、チェコ、オーストリアの子と4人で部屋を共有することになった。イギリスの子とは1番話をした。知的で優しく大人しめの子であった。彼女はイギリス人なので英語が母語という訳だが、私が理解できる難易度の単語を使い話してくれていたように感じる。(時々ジョークが分からなくて悔しかったが。)オーストリアの子はミュージックスクールに通っており、セレモニーでは歌を披露していた。彼女もとても優しくかった。ただ、チェコの子は到着時あまり他国の子と積極的に会話をする様子もなく目つきも鋭く感じたため最初は少し怖気付いていた。しかし、部屋に入り荷物の整理をしていると彼女から「日本のどの辺りに住んでいるの?」と質問され、話をしているうちに笑顔が見られ、話し方もとても柔らかく、私の英語は流暢ではないのにしっかり話を聞いてくれて、「なーんだ、すごい優しい子じゃん!」と、とても安心した。夕食後にはアイスブレイクがあり、椅子取りゲームをしたり、互いに自己紹介をしあった。私は時差ボケで終始眠たかった。





〈11/22 日目〉

この日は朝からオリンピックに関する講義を受け、その後は自由に市内散策をし、夕食の前にはオープニングセレモニーが行われた。講義の前に、イギリスとオーストリアのルームメイトを市内散策に勇気を出して誘った。断られたらどうしよう..と思っていたがすぐに承諾してくれた。この時、やはり勇気を出して自分から積極的に話しかけるべきであると感じた。

私はこの日の昼食をウクライナの女の子とウクライナの先生の 3 人で食べた。彼女から話を聞くと、戦争の影響で飛行機が止まっており電車などを乗り継いで 3 日ほどかけてドイツまで来たとのことだった。「到着が夜遅かったから昨夜のアイスブレイクには参加できなかったの。だから昨日はお話できなかったね。」と優しい口調で話してくれる彼女をみて、長旅で疲れているのにこんなに優しく接してくれる彼女の国で戦争が起きているのかと悲しい気持ちになった。この日の夜にはナイトディスコがあったが、この手のダンスパーティー? に慣れていない私はかなり動揺した。しかしせっかくの機会と思い無理やり参加していたがすぐに疲れてしまった。みんな 2 時間も踊りっぱなしなのである。私は雰囲気圧倒されてほぼずっと棒立ちだった。すると昨日仲良くなった南アフリカの子に「恥ずかしがらないで踊りなよ!誰もあなたのこと見てないよ!」と声をかけられたり、「なんか怖そう...」が第一印象であったチェコのルームメイトに「Come on girl!」と声をかけられ輪の中に入ったり出たりを繰り返していた。ディスコが終わり部屋に戻るとイギリス人のルームメイトはすでにシャワーを終えベットの上になっていた。ディスコにいかなかったのかと尋ねると「普段からこんな感じのパーティーはあるけど私には合わない。今日は参加しようと思ったけどやっぱりあんまり好きな雰囲気じゃなくて 10 分くらいで部屋に帰ってきた。もう少し静かだったらいいんだけど、少しうるさすぎる。」と言っていた。「私は今回が初めてのディスコだったけど私も得意というまでではないかな。」と他の 2 人のルームメイトが戻ってくるまでしばらくディスコについて彼女と 2 人で話していた。私もどちらかというと彼女よりディスコが得意なタイプではないと思ったがディスコは言語を超えて繋がれる機会であると思ったので次はもう少し頑張って積極的に輪の中に入って参加していこうと思いながら眠りについた。





〈11/3 3日目〉

この日はとてもタイトなスケジュールであった。が、とても充実した 1 日だった。朝からディスカッション、スポーツプログラムの一つであるクロスカントリー、アートワークショップ、オリンピックに関する知識テストが行われ夕食後にはミニエキスポが行われた。私の中では用意されていたプログラムの中で 1 番印象に残っているのがミニエキスポである。それぞれの国が自国の食べ物や飲み物、お土産を展示し、それらを試しながらお互いの国について質問をしあったりもした。今回が初めての海外経験であった私にとって一度に 18 カ国もの国の文化に触れることのできたこの時間はとても新鮮で幸せなものであった。私は特にフランスとスロバキアのブースに魅力を感じた。なぜ魅力を感じたかというと彼らがすごく熱心に彼らの国について教えてくれたからだ。「このお菓子はフランスでかなり有名でこういうもので作られていて...」「これ飲んでみる?これはね...」と楽しそうに話す彼らの姿に私はとても刺激を受けた。これは彼ら自身が彼らの国を愛し、誇りを持っていて、また愛しているだけでなく知識があったからできたことだと思う。ミニエキスポを通してどうしたら「日本はいい国だ。」「日本という国に訪れてみたい。」と感じてもらえるだろうかと考えたが、まずは私たち自身が日本の文化に誇りを持つことが大切だと感じた。限られた展示スペースの中でどうすれば日本のよさを最大限にアピールできるかというところはもう少し考えた方がよかったかもしれないと今は感じている。

当然自分に親切にしてくれた子の国に対してとてもいい印象を抱いたので相手に親切にすることや相手や相手の国に尊敬の気持ちを持って接することは基本事項だと改めて感じた。この相手を敬う気持ちはオリンピックにも通ずるところがあると思う。





〈11/4 4 日目〉

この日は悪天候の中スポーツテストが行われた。また、アートワークショップ、ディス

カッションがあり、夕食後には民族ダンスの発表が行われた。ディスカッションでは「オリンピックを持続可能なものにするために」というトピックで話し合ったが、教育という面からアプローチするという話になったときにインドの学生が「私の学校では毎授業後に環境問題について考える時間が設けられている。」という話をしている私にはそのような習慣はないので驚いた。(私の学校に限らず日本の多くの学校ではそのような取り組みはないだろう。)学校でそのような時間を設けることで持続可能なオリンピックを目指してアプローチしていくことはいい案だと思った。

民族ダンスの発表ではチーム日本はソーラン節を披露。正直私は海外の子から日本の発表がどう見えていたのか不安だった。曲調も独特だし、同じような動きを何度も繰り返しているため退屈されていないだろうか心配になったのだ。しかし、ドイツの子が発表を終えた私たちに笑顔でハイタッチをしてくれたり、フランスの子が「曲の歌詞の意味を教えてください」と話しかけてくれた時は興味を持ってもらったのだととても嬉しかった。

この日の夜、一つハプニングがあった。私がシャワーを終えて部屋に戻ると、チェコとオーストリアのルームメイト 2 人がコソコソと話していた。なんだろうと身構えていたら、「Katie(イギリスのルームメイト)がずっと泣いてるの。音聞いてみて。」とやってきたのだ。二段ベッドの上から本当にすすり泣く音が聞こえたので、2人のルームメイトに状況を尋ねると、「あなたがシャワー行った後くらいからずっと泣いてるの。理由を聞いても話してくれない。」とのことだった。ここにきて突然のホームシックか? と思ったが、他の2人のルームメイトの提案でイギリスから派遣されている生徒を部屋に呼んで話してもらおうということになった。その生徒は別の棟で生活していたのだが他の部屋の生徒も協力してくれてなんとか部屋に呼ぶことができた。それでも彼女はまだまだずっと泣いていて何も話さなかった。フォーラムがもうすぐ終わってしまうことが悲しくて泣いているなら問題ない。ただ、何か嫌なことがあったりしたなら...と不安になり、「大丈夫?何か問題があったら躊躇わずに話してね。」とテキストメッセージを送って眠りについた。結局彼女がなぜ泣いていたのかは分からないままだが、翌朝、笑顔で「Good morning」と言ってくれた時は心の底から安心した。



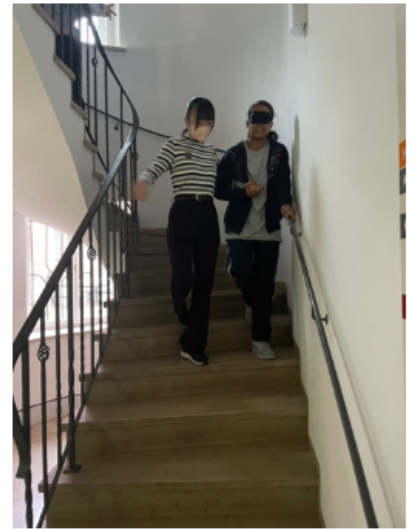


〈11/5 5 日目〉

この日はアートワークショップ、パラリンピックスポーツの体験、クロージングセレモニーが行われた。また、帰国時に必要な PCR 検査を受けるためにユースホステルの 近くにある検査会場を訪れた。(結局この日は PCR 検査は受けられなかったのだが...)

パラリンピックのスポーツ体験はとても印象に残っている。パラリンピックのスポーツ体験では目隠しをしてランニングをしたりユースホステルの中を歩いたりした。これらを体験する前はへっちゃらだろうと思っていたが実際にやってみると付き添いの人 がいなくてもとても怖くて走るどころか歩くことにも勇気が必要だった。体験してみること でようやくその不自由さや恐怖感は分かるもので、想像するだけではそれらを理解するには到底及ばないと感じた。学校などで実際にパラリンピックのスポーツ体験を行うことでパラリンピックへの関心を高めたり、理解を深めることに繋がるのではないかと感じた。

PCR の検査場(検査場といっても本当に小さな敷地)では「国に帰るために陰性を証明したい。」という、「何か症状がないとここでは検査を受けられないんです。」と言 われてしまった。しかし、検査場のスタッフの方が別の検査場を調べてくださった。スタッフの方はドイツ人であり英語が得意ではなかったようだが私たちにとても親切 だった。翌日ドイツの先生が検査場まで連れて行ってくださり無事に PCR 検査を受けることができた。プログラムの途中で私たちを検査場に連れて行ってくださったにも関わらず、今思うと車を降りた時に「Thank you」と言ったくらいできちんとお礼を伝えていなかったなと思い後悔している。





## 〈11/6 6 日目〉

フォーラムの期間は 11/7 までだったが 7 日の早朝に空港へ出発したので実質この日が最終日のようなものである。しかしフォーラムが終わってしまうという実感はまだ湧かなかった。この日は 5 日間滞在したユースホステルに別れを告げてミュンヘン市内の観光に出かけた。観光を終えて最後の夕食をとり、お別れのディスコがあった。私はプログラムの farewell party という文字からディスコは全く連想しなかったが(もっとしんみりとしたものだと思っていた。)しっかりディスコが行われた。しかし終盤はみんなダンスをやめ語り合っていた。

先述したように私はディスコが得意なタイプではない。イギリスのルームメイトも同じだ。しかしこの日は、「最後だし、一緒にやろう」と誘い、一緒に輪の中に入っていった。するとドイツの子が足のステップを教えてくれたり、オーストリアの子が私の手をとって踊ってくれたりした。イギリスの彼女も笑顔だった。部屋に戻ったあとに「ずっと私にディスコは向いてないって思ってたけど、今日は楽しかった。」と話していてとても嬉しくなった。日本の出発が早いことを知った子がハグをしにきてくれたり、出発の準備を進めていく中で本当にもう帰らないといけないんだなと寂しい気持ちになった。部田さんと私は一睡もせず、ドイツの女の子とフランスの男の子とユースホステルのロビーで色々な話をして最後の夜を過ごした。



〈全体を通して〉

ミニエキスポで日本は折り紙に漢字で名前を書いて渡すということを行ったが、ウクライナの子はそれを気に入ってくれたようでミニエキスポの翌日に「ウクライナで私を待っている友達や家族にも、これを作って欲しい」と頼んでくれた。ウクライナの子が喜んでくれたことはすごく嬉しかったが、同時に実質的な支援が何も出来ていないもどかしさも感じた。今回のフォーラムは「オリンピズムは青少年が国際的な友情と平和のために努力することを奨励する」がモットーであったが、帰国した今、私は平和のために何ができるのだろうと考える時間が増えている。フォーラムの間は、今目の前にいるこの子が住んでいる国で戦争が起こっているなんて信じ難いと思った。色々な国の人が一緒にダンスをしたり、スポーツをしたり、ご飯を食べたり、語り合いながら楽しく過ごしているユースフォーラムは、平和そのものだったからだ。この先、何か高校生という立場でも平和のために力になれることがあればどんな小さなことでも積極的に取り組んでいきたいと思う。

この国際 YF が語学留学や海外旅行と決定的に違う点の一つの場所に 10 何ヶ国から参加者が集まるところだと感じる。オリンピズムに関わる様々なアクティビティを通して、一度にこんなにたくさんの国の人と関わり、たくさんの国の文化に触れることのできる機会は滅多にないことだと思う。また、国際 YF を通して、海外の人と接する時には自分自身の振る舞いや印象がそのまま「日本」という国の印象になるということに気付いた。なぜなら私自身が様々な国の子と交流する中でそれぞれの国に対して持っていたイメージが大きく変わったことがたくさんあり、私が海外の子から受けた印象がそのまま国自体の印象に繋がったように、私自身が「日本」という国のイメージを作り上げている存在なのだと感じたからだ。

あまりの学びの多さにまだ自分自身の考えがまとまりきっていないのが正直なところである。しかし、参加したことによって、スポーツテストや知識テストの結果に関わらず、私たち参加者が多くの学びと友情を得られたことは不変の事実である。私たちがフォーラムを良いものにしようと参加者それぞれがベストを尽くす過程で、クーベルタンの言っていた「参加することに意義がある」という言葉の意味を実感できた貴重な経験であった。

今回の第 13 回国際 YF は数日の差ではあるが例年に比べて開催期間も短く、渡航前は 1 週間でどれほどのことができるのだろうかと思っていたが、本当に充実した、濃い 1 週間であった。今世界がコロナや戦争に翻弄されている様に、この先また何か新たな問題が起こり、フォーラムの開催が厳しくなってしまうこともあるかもしれない。しかし私は世界中から同世代が集まり、友情を育むことのできるこの素晴らしい国際 YF がどんな形であってもずっと続いてほしいと強く願っている。

ドイツで過ごした時間は 1 週間という短い時間だったが、今までの人生の中で最も記憶に残る 1 週間となった。この経験を自分自身のこれからは活かすことはもちろん、この学びを自分の中だけで完結させることなく、学校での報告会や国内での YF を通して次の世代に繋げていけるように努力していこうと思う。





## 第 13 回国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム報告書

2022 年度 11 月 1 日から 11 月 7 日まで「国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム」に参加しましたので、以下の通り報告いたします。

〈国際ピエール・クーベルタンユースフォーラムとは〉 2年に1回開催されるオリンピックをテーマに世界各地から同年代が集まる国際交流活動であり、約1週間の共同生活やスポーツ・芸術活動を通じて、様々な国の生徒と交流をすることが目的とされている。今回のフォーラムでは「オリビズムは青少年が国際的な友情と平和のために努力することを奨励する」というモットーのもと各国の交流が行われた。

〈開催地・期間〉 今回のフォーラムは、もともとキプロスでの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症 やウクライナ戦争のことなど、各国の状況を踏まえ、ドイツのミュンヘンで 11 月 1 日から 7 日までの期間で、通常よりも規模を縮小して行われた。

## 〈日程・プログラム〉

<p><b>Tuesday, 1<sup>st</sup> November 2022</b></p> <p>Arrival in the afternoon Welcome to the delegations: The delegates check in at Castle "Schwaneck". Selection of sporting activities</p>  <p>18.00 Dinner 20.00 Informational meeting to everyone Knights' Hall 20.15 Social evening for the Youth Knights' Hall 20.30 First teachers' meeting, Cafe 22.30 Bedtime</p> <p><b>Wednesday, 2<sup>nd</sup> November 2022</b></p> <p>8.00 Breakfast 8.30 Teachers' meeting, Knights' Hall 9.00 <b>Lecture A:</b> Prof. Dr. Stephan Wassong, IPCC President (English), Knights' Hall <b>Lecture B:</b> Dr. Ines Nikolaus, IPCC Vice-President, Delegate for the International Network of Coubertin Schools (French) Cafe International 11.00 Visit of Pullach – Free time 13.00 Lunch 14.00- Preparation for the Opening Ceremony/ 15.30 Selection of sporting activities 16.00 <b>Opening Ceremony, Knights' Hall</b> 18.00 Dinner 20.00 Disco, Knights' Hall 20.30 Teachers' meeting 22.30 Bedtime</p>	<p><b>Thursday, 3<sup>rd</sup> November 2022</b></p> <p>7.00 Morning gymnastics 7.30 Teachers' meeting 8.00 Breakfast 8.30- <b>Discipline of the Coubertin Award:</b> 10.00 Discussion topic 1 10.30 <b>Discipline of the Coubertin Award:</b> Cross-country race</p>  <p>13.00 Lunch 14.00 <b>Discipline of the Coubertin Award:</b> Arts workshops 1 16.00 <b>Discipline of the Coubertin Award:</b> Knowledge Test 17.00 Free time/Preparation for the Mini-Expo 18.00 Dinner 19.30 <b>Mini-Expo, Knights' Hall</b> 21.00 International dances, Knights' Hall 22.30 Bedtime</p> <p><b>Friday, 4<sup>th</sup> November 2022</b></p> <p>7.00 Morning gymnastics 8.00 Breakfast 9.00- <b>Discipline of the Coubertin Award:</b> 12.00 <b>Sports competitions</b> 13.00 Lunch 14.00 Teachers' meeting 14.30 <b>Discipline of the Coubertin Award:</b> Arts workshop 2 16.00 <b>Discipline of the Coubertin Award:</b> Discussion topic 2 18.00 Dinner 19.00 Free time/Optional Sports activities 20.00 Singing/Playing Games Board Games, Chess, Origami ... 22.30 Bedtime</p>	<p><b>Saturday, 5<sup>th</sup> November 2022</b></p> <p>7.00 Morning gymnastics 7.30 Teachers' meeting 8.00 Breakfast 8.30- <b>Discipline of the Coubertin Award:</b> 10.30 Arts workshop 3 11.00 Improving your sporting abilities: Paralympic sports and games 13.00 Lunch 14.00- Free time/ 15.30 Packing suitcases/backpacks 16.00 Rehearsals for the presentations of the Arts Workshops 18.00 Dinner 19.30 <b>Closing Ceremony</b> + Presentation of the Arts Workshops/Discussion groups + Disco 22.30 Bedtime</p> <p><b>Sunday, 6<sup>th</sup> November 2022</b></p> <p>7.00 Wake up Preparation for departure 8.00 Breakfast 9.00- <b>Excursion to Munich</b> (Packed Lunch) 17.00 Guided tour through the Olympia Park of Munich 1972 Visit of BMW World Guided Tour through Munich City Free time Munich centre</p> <p>17.00 <b>Departure to the Youth Hostel in</b> Pöschinghofen 18.00 Dinner 19.00 <b>Farewell party</b> 22.00 Bedtime</p> <p><b>Monday, 7<sup>th</sup> November 2022</b></p> <p>7.00 Wake up/Preparation for departure 7.30 Breakfast Departure of the delegations</p> <p>Olympia Park of Munich 1972</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

以上のような表の通りの日程の中でプログラムが行われた。

そしてこれからは各日にちごとの詳細について書こうと思う。

11月1日

11月1日はフォーラムの初日であった。各国全体の集合時間は夕食の6時であったが、日本チームは正午に宿舎に到着した。南アフリカチームも同じ時間に到着したので、集合時間まで折り紙を折ったり、市内の散策をして時間を過ごした。各国が集まった後には、アイスブレイクの時間がとられた。この時間では初めて、各国の生徒としっかりと話すことができた。その中で一番衝撃的だったのはやはり各国の英語能力の高さであった。私たち日本人がグローバル化の時代の中でたくさんの人と深く関わっていくには、日本の中で英語を学び、実践するのではなく、もっと多くの英語の発音に触れる機会が必要であると感じた。



11月2日

2日目は、近・現代のオリンピックやクーベルタンの思想についてレクチャーやミュンヘンブラハ市内の散策、オープニングセレモニーなどが行われた。またオープニングセレモニーの後には ディスコが行われた。私が本当の意味で友達を作ることができたのはこのディスコ時間であったと感じる。1日目でも書いた通り、私の英語の能力は他国の生徒に比べて劣っており、友達と深い話をすることはできなかった。しかし、ディスコと一緒にダンスをし、時間を過ごしたことにより、その人の人柄を真に理解することができた。この経験を通し改めて、スポーツの可能性を考えるきっかけになったと思う。





11月3日

3日目は朝から、クロスカントリーやダンスのワークショップ、午後にはオリンピックについての知識テストや各国の出し物をするミニエキスポが行われ、内容の濃い1日であった。この日は、イベントも多かったので楽しいこと、学んだことは多くあった。その中でもミニエキスポでの各国の出し物はそれぞれの国の特色を表しており、そこにいるだけで世界各国を旅しているような経験ができて楽しい時間だった。またその時間の日本チームは浴衣を着て出し物を行ったが、各国の生徒は浴衣よりも足元の下駄に興味津々だった。特に、靴が木で作られていることに興味を持っていて、このように日本人でさえも理解できていないような日本文化の魅力が各国の生徒のリアクションから知ることができ、とても貴重な経験になったと感じる。これから海外の方に日本文化を紹介するときは、積極的に「下駄」を紹介していこうと思う。



11月4日

4日目には、古代オリンピック陸上競技のスポーツテスト、ダンスのワークショップ、オリンピックについてのディスカッションが行われた。ここでは、ダンスワークショップで感じたことを書きたいと思う。それはヨーロッパ人のレッスンに対する向き合い方だ。彼らは、ダンスのレッスンを経て得られる結果ではなく、そのレッスンという過程をととても大事にしていたし、過程の中にこそ楽しさを見出していたと感じた。それは、レッスンを受けるだけでなく、このレッスンがどのようにしたら楽しくなるのかをずっと考えていたからだ。だからこそ彼らは、レッスンが楽しくない場合はそのことを先生に伝えていたし、時にはもっと良くなるように先生にアドバイスをすることもあった。そういった姿勢には私たちが学ぶべきものがあるのではないかと感じた。





11月5日

5日目には、ダンスのワークショップやパラスポーツの体験、クロージングセレモニーが行われた。クロージングセレモニーでは、フォーラム期間で多くの時間を使い、練習したワークショップでのダンスの成果を発表した。また、スポーツテストや知識テスト、ディスカッションでの成績を総合的に評価して、良い成績を残したものに与えられるクーベルタンアワードの表彰式も行われた。私も無事、クーベルタンアワードのメダルを受けとることができた。そして最後には、ディスコのダンスパーティーが行われた。自分にとってディスコは、ただ楽しいものではなく、私たちを繋げてくれた特別なものになっていたので、そのディスコも最後のチャンスになると思うとすごく、悲しい気持ちになった。



11月6日

6日目は、泊まっていたユースホステルを出発し、ミュンヘン市内へ向かった。ミュンヘンでは、1972年のミュンヘンオリンピックが行われた競技場の見学や、現地の高校生ガイドとなってミュンヘン市内を案内してくれた。1972年大会で起きた「黒い九月」によるテロ事件が、自分がいる競技場の周辺で起こったことを考えると胸が痛くなった。また、世界の注目を集める大規模なオリンピック大会であるからこそ起こった事件であるので、これからもそういったオリンピックの側面を持ち続けていいものか改めて疑問に感じた。





11月7日

7日目は最終日であったので、朝はやくに宿舎を出発しミュンヘン空港に向かった。特に特別な イベントはなかったが、ルームメイトやその他の友達との最後の時間を大切に過ごした。日本 チームはポーランドチームと一緒にバスで空港に向かったが、バスが空港に着くまでの長い時間 一度も絶えることのなかったルームメイトの涙が、スポーツによって築かれた私たちの友情が決して薄っぺらなものではなかったと私に気づかせてくれた。



#### 〈フォーラムを通して学んだこと〉

私はこのフォーラムを通して様々な気づきを得ることができた。上記したように私は他国の生徒に比べて「英語」という面ではまだまだ劣るところがあり、上達の余地はいくらでもあったと感じた。しかし、英語ができなくてもコミュニケーションができなかったということではない。「コミュニケーション」=「英語」ではなく、英語がコミュニケーションツールの一つでしかないことを改めて理解することができた。そしてまたスポーツもコミュニケーションのツールになりうるのだと肌で感じることもできた。スポーツを通して同じ時間や同じ感情を共有することで私たちは、言葉だけでは作られないような友情を築くことができた。クーベルタンは、オリンピックの理念を「スポーツを通して心身を向上させ、さらには文化・国籍など様々な差異を超え、友情、連帯感、フェアプレーの精神を持って理解し合うことで、平和でよりよい世界の実現に貢献する」としている。私がフォーラム期間中に特に意識したということではないが、今振り返ると それらを言葉だけ理解するのではなく、身をもって体現することのできた期間であったと感じる。オリンピックをはじめとした現代の多くのスポーツの大会では、過度な肥大化、商業化が進んでしまっている。そうしたことばかりに気を止めるのではなく、私たちがフォーラムを通して体現することのできたスポーツの可能性を私は大切に守っていきたいと思う。そしてやはりこれは 私たち一人ひとりが真剣に考え始めることが最初の一步であると思う。多くの人が考え始めるという最初のステップを踏み出せるように、フォーラムに参加した私は様々な場面で多くの人に考えるきっかけを与えられるよう努力していきたい。

## 国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム参加報告書

私はスポーツが好きです。部活・体育・五輪・W杯・雑誌 Number。「する・観る・支える」スポーツと多様に関わる毎日を過ごしています。スポーツが縁で当フォーラムにも出逢うことができました。

フォーラムはドイツ渡航の10ヶ月前からスタート。五輪研究の大学教授や東京2020に関わった方々の講義、五輪特集本の読破、ドイツでの知識テストやディスカッションの準備、パラスポーツボランティア等を通じ、多角的にスポーツについて考え、知見を高め、スポーツへの興味が一段と高まるワクワクした時間を過ごしました。一方、ドイツへの渡航は不安な気持ちでいっぱいでした。過去に参加したプログラムで受けたアジアンヘイトの再来、英語は通じるだろうか、帰国日と重なってしまった修学旅行へ合流できるだろうか、心配事が日に日に増していきました。入国日はスマホのデータ通信ができないトラブルにも見舞われ、案の定、正直帰りたいと思う始まりとなりました。しかし、スポーツテストやディスコを通じて、温かい応援やフレンドリーな声掛けをもらい、だんだんと他国の参加者と打ち解けていきました。拙い英語でも聞き取るようになってくれる優しくて思いやりを溢れたルームメイトにとっても救われました。参加者との距離を急速に縮めることができたのはミニエキスポです。日本ブースは予想以上に盛況で、それまでお話できなかった人達ともワイワイ楽しくコミュニケーションすることができました。文化の力、日本の魅力や良さを実感し助けられました。上手く英語で気持ちや考えを伝えられない時のもどかしさはもちろんのこと、母国語でも他国とコミュニケーションできる欧州の参加者たち、五輪公用語のフランス語のレクチャーを普通に受講するフランスやアフリカ圏へのうらやましさを忘れることができません。言語や表現力の勉強に一層励みたいと思いました。



ドイツのステイ中で最も衝撃を受けたのは、ウクライナの参加者から直接聞いた自国の悲惨な状況です。そして、彼女が製作していたLove&Peaceを自国の友達へ伝える動画やフラッグ製作。命の危機にさらされる中でもフォーラムに参加し、自国の友達を勇気づけるために何が出来るか考え、周囲の人に声掛けする行動力に感銘を受けました。彼女たちの活動こそ、クーベルタンが目指した世界、オリムピズム、オリムピック精神そのものだと思います。平和は私から始まる。一人ひとりができることから始める。参加することに意義がある。これらを教えてくれたフォーラムの存在、それを支えてくださった多くの先生方と参加者に感謝したいです。世界平和のために自分ができることを考え始めました。好きなスポーツを通じて、平和でよりよい世界の実現に貢献できたら幸せだと思いました。



## 国際 YF 参加レポート

私がこの国際フォーラムのことを知ったのは高校 1 年生の秋頃でした。体を動かすことが好きで、また、国際交流活動に興味を持っていた私は、中塚先生のお話を聞き、迷うことなく参加したいと思ったのを鮮明に覚えています。そこから今回の国際ユースフォーラムの参加に至るまでは本当に長い道のりでした。高校 1 年生の冬に国内の選考会に参加し、日本代表に選んでいただいたものの、コロナの影響でキプロスで開催される予定だった第 13 回大会は 1 年延期になってしまいました。しかし、その後もう一度選考会を行うというお話を中塚先生から聞きました。受験直前に参加することになるためとても迷いましたが、この経験は自分にとって有意義なものになると思い、再度チャレンジすることを決意しました。そのおかげで、二回目の選考を受けドイツに行くことができました。この通り、今回のユースフォーラムへの参加は私にとって本当に念願の参加だったのですが、渡航直前は、ルームメイトと仲良くなれるのか、クーベルタン賞を取れるのかなど正直不安でいっぱいでした。その不安からか、一日目の夜はルームメイトの英語の会話スピードに圧倒され、帰りたいたいと思うこともありました。しかし、クーベルタンアワードのプログラムやミニエキスポ、日々の食事や自由時間を過ごしていくうちに、コミュニケーションを取れるようになっていきました。そして、この 1 週間を通して、多くのことを学ぶことができました。まずは英語を話すことを恐れないということです。日本人は真面目なので、完璧な英語が頭の中で完成するまで話そうとしない人が多いような気がします。私も初日はそのような話し方をしてしまっていました。しかし、ヨーロッパから来たルームメイトたちが会話しているのを聞いてみると、とりあえずなにか話そうとしているということが多いことに気づきました。その姿を見て私もなにか話すこと、理解してもらえらるまで話し続けることを意識するようになりました。すると格段と多くの人と会話ができ意思疎通ができるようになりました。コミュニケーションを取る上で大切なことは完璧な言語能力ではなく伝えようという意思であると改めて感じることができました。次に、各国の文化、価値観の違いです。特に強く感じたのがディスコでした。6 日間あったフォーラムのうち 3 日間は夜にディスコがあってみんなひたすら踊っていました。日本では未成年者はクラブなどに入れないため、私達日本の学生にとっては馴染みがないものでしたが、ヨーロッパの子たちは普段から友達とこのような遊び方をしているとのことでした。私がディスコに参加したことがないと伝えると、ディスコがなかったら友達と普段何してるの!?!と驚かれるほどでした。それほどカルチャーギャップがあるということに驚くとともに、それらを理解することがどれほど大切か気づくことができました。このユースフォーラムでは一カ国への海外留学では得ることのできないたくさんの経験や、仲間を得ることができました。このことは自分の人生にとってすごく大きな財産になると思います。また、国外のメンバーだけでなく、国内の他の 4 人のメンバー、補欠メンバーや国内のユースフォーラムで出会った仲間達など、今回の渡航に至るまで多くの人と出会い、交流し、意見を交わすことができました。昨年の渡航中止から諦めずに再度挑戦して本当に良かったです。最後に、今回の渡航を支えてくださった事務局のみなさん、先生方、そして一緒に渡航してくれた 4 人のメンバーと内藤先生、ありがとうございました。

## 第13回国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム 参加報告書

国士舘高等学校 3年 西村綾花



### 〈ミニエキスポ〉

3日に行われたミニエキスポでは、日本の文化を紹介すると共に他国の文化や伝統についての理解を深めたいと思い積極的に沢山の国の人と交流をしました。日本の伝統衣装である浴衣や抹茶のお菓子、2020年に行われた東京オリンピックについて他国の人と会話をすることができ、国際ユースフォーラムで1番有意義な時間となりました。多くの人と仲良くなることのできた1番の交流時間でもあったので、様々な国に対しての関心はかなり高まりました。



### 〈トラディショナルダンス〉

ミニエキスポと同じく文化交流の機会の1つとして行われたトラディショナルダンスでは、日本で見ることのできない衣装やダンスを見るときも貴重な時間でした。日本のトラディショナルダンスはソーラン節を踊りました。かなり他国の人に好評で、浴衣と共に法被の衣装も「とってもクールだね!」とルームメイトなどに褒めて頂きました。他国のダンスは参加型が多かった為、実際に自分達も参加をして他国のダンスを行い、理解を深めることができました。他国にもあった偏見や価値観についても同じ時間を共有することで変化していきま

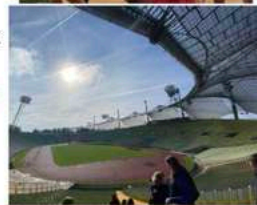


### 〈ディスコ〉

ほぼ毎晩行われていたディスコでは、沢山の曲に合わせて体を動かして楽しみました。日本には無い文化で最初は戸惑いあまり積極的に参加することができませんでしたが、英語が苦手な私にとって言語を使わずに多くの人と交流できるディスコはとても楽しく、体を動かして言語以上のコミュニケーションを取ることができました。

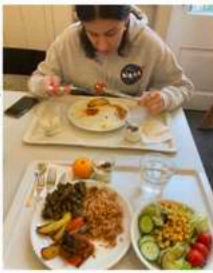
### 〈ドイツ観光〉

最終日に行われたドイツ観光ではミュンヘンのオリンピアパークに訪問して、実際に選手が使用していた展示品を見たり、競技場を探索したりしました。また、ミュンヘン市内観光を現地の学生ガイドさんと一緒にいき、謎解き方式でさまざまな場所を探索しました。実際にドイツの学生さんと交流し、ドイツ市内の日常等をより知ることができました。



### 〈食事〉

食事は基本3食バイキングで好きなものを取って食べました。日本にもあるチーズやサラダなどに加えてドイツならではのプレッツェルを食べたりしました。食事をするメンバーは決まっておらず毎食固定では無かったので、沢山の参加者と交流できました! その中でも特に驚いたことはりんごなどのフルーツは丸かじりして食べることでした。また、国によって食べられる物が制限されていたり、部屋で大量にお菓子を食べていたりするルームメイトもいてとても面白かったです。



### 〈クーベルタンアワード〉

今回のユースフォーラムの目的であるクーベルタンアワードでは知識テストやスポーツテスト、アート活動を行い、日本メンバー全員がメダルを獲得することができました。その中でも特に知識テストではドイツ入国前に日本のメンバーで対策をしっかりと高得点を取ることができました。ですが、他国ではクーベルタンに関する授業を頻繁に取り入れている学校もあり、周りの知識量に圧倒されました。スポーツテストでは陸上競技の選手や新体操の選手が多く集まっていた為、日本ではあまり見かけない身体能力に驚かされましたが、全員で力を出し切ることができました。

今回のユースフォーラムに参加をして、初めは日本とはあまりにも違う文化に驚き、特に私自身英語が苦手だったので、初日はほとんど交流せずに1人でいることが多かったのですが、1週間という期間の中で日を追う事に生活スタイルをルームメイトと共有したり、毎日食事を共にしてたわいも無いような会話をしたり、ディスカッションやアート活動、スポーツ活動などと言った活動を通して多くの時間を共に過ごすことで、言語の壁を取り払って交流活動を行うことができました。言語の壁が自分自身の中で1番の課題でしたが、失敗を恐れず、とにかく積極的に色々な人と関わって、全ての活動に全力で取り組むことを意識するように心がけることで、沢山の人の考え方を学ぶことが出来たり反対に自分自身の考えを伝えることができたりと、今回のユースフォーラムで自分自身の考え方や見えている世界が物凄く大きく広がりました! 🌍🤝

